

(3) 水田畦畔（電気柵下の雑草抑制）

ア 水田畦畔における電気柵下の除草の考え方

- (ア) 出穂期から収穫期の間、電気柵下の雑草の伸長を抑制し、電線への雑草の接触による電圧の低下（侵入防止効果の低下）を防止する。
- (イ) 電気柵の最下段の電線は地上約 20cm に設置し、雑草の草高も 20cm 以下に抑える。
- (ウ) 出穂前に刈払機による草刈りを行い、以降の薬剤散布が必要な場合、除草剤の散布間隔は雑草が 20cm 以上に伸長し始める 1 回目散布の 2 週間後が適当である。
- (エ) 出穂期から収穫期までの間、電気柵の効果を維持するには、刈払機による草刈り後、バスタ液剤、グラスショート液剤、ラウンドアップマックスロード液剤の散布、あるいはバスタ液剤又はザクサ液剤とカーメックス顆粒水和剤又はダイロンゾルの同時処理が有効である。
- (オ) グラスショート液剤は、生育初期の雑草の伸長を抑制するため、草刈りの約 5 日後に散布し、2 回目の散布は雑草の再伸長期に行う。
- (カ) 薬剤散布後の降雨が雑草の生育に影響を与え、効果持続期間が変化するため、雑草の伸長に併せて追加の散布を行う。
- (キ) ラウンドアップマックスロード液剤は地下部まで枯らし地表面が露出する場合があります、降雨により土砂流出のおそれがあるため、傾斜のある畦畔へは使用を控える。
- (ク) 薬剤散布場所外側からの、クズ等つる性雑草の侵入が考えられるため、そのような場合には散布場所外側の草刈りも行つか、あらかじめ散布幅を広くする。

イ 水稻栽培における電気柵下の雑草管理作業体系

水稻栽培における除草剤等による省力的電気柵下雑草管理作業体系（例：コシヒカリの場合）

月・旬		7月	8月			9月
		下	上	中	下	上
イネの生育ステージ		出穂期	乳熟期			収穫期
作業内容	草刈りのみ	草刈り	草刈り	(2週間間隔)	草刈り	草刈り
	草刈りと薬剤散布	草刈り	散布 (草刈り約5日後)	散布 (1回目散布2週間後)		

注1) 斑点米カメムシ対策として、出穂2週間前までには草刈り等を実施しておく。

農薬登録情報【水田作物（水田畦畔）】・【水稻（水田畦畔）】

除草剤名（一般名、％）	適用雑草	備考
バスタ液剤 （グルホシネート 18.5％）	一年生雑草、多年生雑草	1 水田作物（水田畦畔）での登録。 2 周囲の作物に散布しないよう飛散防止カバーをつけて散布する。 3 散布後 6 時間以内に多量の降雨があった場合は、効果が低下することがある。 4 効果発現まで 2～5 日かかる。 5 少量散布の場合には、専用ノズルを使用する。
ラウンドアップマックスロード （グリホサートカリウム塩 48％）	一年生雑草	1 水田作物（水田畦畔）での登録。 2 周囲の作物に散布しないよう飛散防止カバーをつけて散布する。 3 好天時に散布する。散布後 1 時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので注意する。 4 多年生雑草では散布後 2 週間は地上部の刈取りを行わない。 5 少量散布は希釈水量に応じ専用のノズルを使用する。 6 展着剤を加える必要はない。
	多年生雑草	
	スギナ	
	一年生雑草及び多年生雑草	
ザクサ液剤 （グリホシネート P ナトリウム塩 11.5％）	一年生雑草、多年生雑草	1 水田作物（水田畦畔）での登録。 2 周囲の作物に飛散しないよう飛散防止カバーをつけて散布する。 3 散布後 1 時間以内に降雨なければ効果に大きな影響はない。 4 効果発現まで 2～5 日かかる。
カーメックス顆粒水和剤 （DCMU 80％）	一年生雑草	1 水田作物（水田畦畔）での登録。 2 水稻に飛散しないよう注意する（土壌処理）。 3 畦塗り直後で畦畔が濡れているときは、水田に流入し被害を生ずる恐れがあるので使用しない。 4 完全に除草すると畦畔の崩壊する恐れがあるところでは使用しない。特に透水性の大きな畦畔、砂質土では、散布液の水田への流入による被害を生じる恐れがあるので使用しない。 5 翌年に移動する畦畔、または崩して水田にする畦畔には使用しない。 6 草刈り後雑草発生揃期に使用する場合は、茎葉処理剤と同時に処理する。
ダイロンゾル （DCMU 50.0％）	一年生雑草	1 水稻（水田畦畔）での登録。 2 激しい降雨の予想される場合は使用をさける。 3 雑草が枯れ残る場合もあるが、抑草効果は持続するので、追加散布や繰り返し散布をしない。 4 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
	一年生広葉雑草	
グラスショット液剤 （ビスピリバクナトリウム塩 3.0％）	一年生雑草、多年生雑草	1 水田作物（水田畦畔）での登録。 2 雑草の生育を一定期間抑制することにより、草刈り回数を軽減できる（抑草剤）。 3 展着剤は加用しない。 4 雑草の種類によっては効果が変動する。 5 ノシバに対しては選択性があるので、ノシバを被覆植物としている畦畔でも使用できる。 6 畦畔から侵入してくる難防除雑草のクサネムに枯殺効果がある。 7 少量散布は、専用ノズルを使用する。 8 薬害が生じるおそれがあるので、水稻には直接かからないように散布する。 9 イグサ、レンコン、セリ、クワイ、豆科作物、ナス科作物、ウリ科作物、アブラナ科作物には薬害が強いため、周辺にこれらの作物がある場合は、飛散に十分注意する。
	イボクサ	